

## 記者会見

福島県内に未就学児を持つ家族を対象とする  
原発事故における「避難」に関する合同アンケート調査

### 記者会見

#### 実施者

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター(CMPS)福島乳幼児・  
妊産婦支援プロジェクト(FSP)  
うつくしまNPOネットワーク(UNN)  
福島乳幼児・妊産婦ニーズ対応プロジェクト(FnnnP)

- 重田康博  
- 宇都宮大学国際学部教授、CMPSセンター長、FSP代表
- 鈴木和隆  
- 特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク、事務局長
- 阪本公美子  
- 宇都宮大学国際学部准教授、CMPSセンター員、FSP事務局長、FnnnP副代表
- 船田クラークさん  
- 東京外国語大学准教授、FnnnP代表

1

2

## 発表内容

1. アンケートの趣旨(重田)
2. アンケートの配布/回収(鈴木)
3. アンケートの入力集計/対象者/結果(阪本)
4. アンケートの対応(鈴木/船田)

3

## 1. アンケートの趣旨

### アンケートの目的

- 原発事故に伴う「避難」に関するアンケート調査は、原発事故以降の福島県の未就学児を持つ家族の状況や意向を把握し、「避難」を含む支援方法等を検討するため

4

## 2. 配布・回収方法

- 共同実施者がともにしたアンケート項目・用紙作成
- 2011年8月～
  - うつくしまNPOネットワークが事務局をつとめるふくしま子育て支援ネットワーク
  - 同ネットワークに加盟している福島県内各地域(県北、県中、県南、会津・南会津、相双、いわき)の23子育て団体等に対して、避難などの支援を検討するために、合計300世帯への配布・回収を依頼した。
  - 各地域の子育て団体は、未就学児を持つ家族のうち、原発震災後、不安をかかえていると思われる家族にアンケートの協力を求め、アンケート用紙の配布・回収、場合によって聞き取りを行った。
- アンケート回収
  - 9月中旬 第一弾 158件 (うち69件が連絡先あり)
  - 9月下旬 第二弾 33件 (うち15件が連絡先あり)
  - 10月 第三弾 47件 (うち10件が連絡先あり)
  - 合計238件 (うち94件が連絡先あり)
- ふくしま子育て支援ネットワーク、並びにうつくしまNPOネットワークが回収した。

5

## 3-1. 入力集計

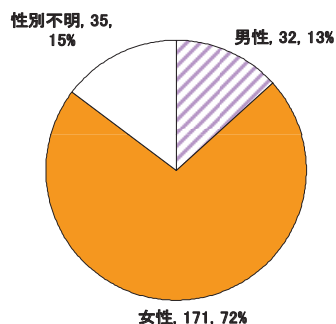
- FSPならびにFnnnPの呼びかけによる20名のボランティアが入力
- FnnnPスタッフがとりまとめ
- FSPメンバーが集計・校正

6

2012/2/28

### 3-2. 対象者について:対象者性別

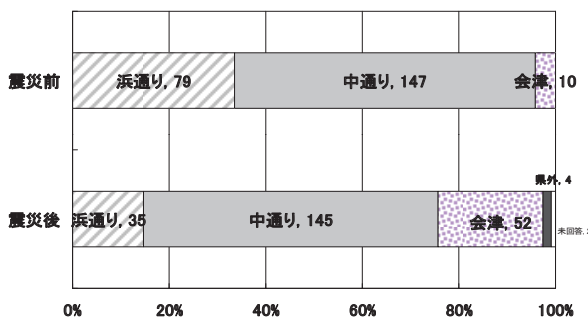
## 3-2. 対象者について



7

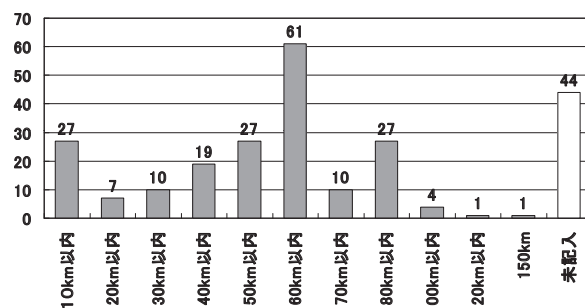
8

### 対象者震災前・震災後住所



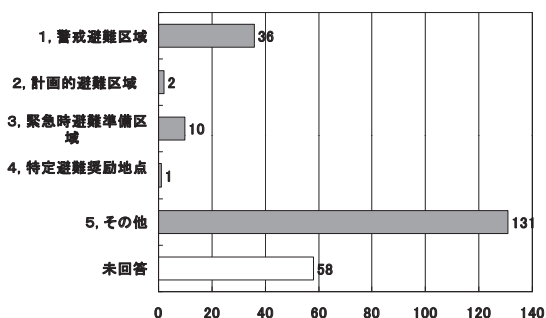
9

### 対象者震災前住居の原発からの距離



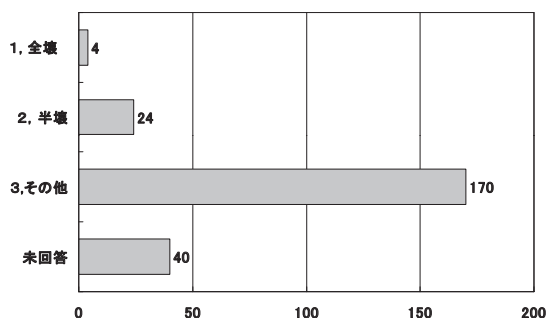
10

### 区分



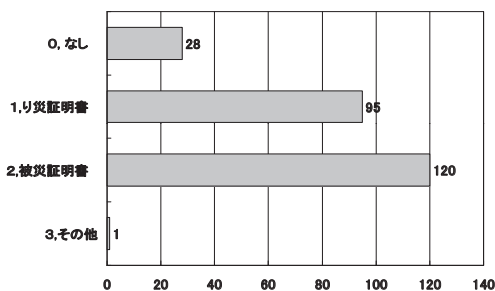
11

### 家の被災状況



12

### 証明書の有無



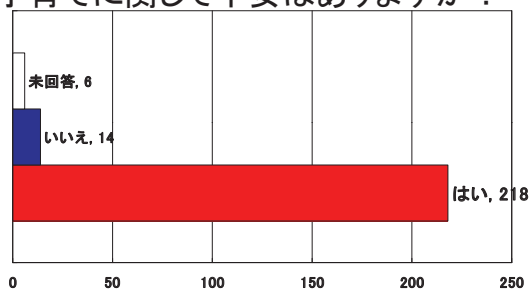
13

## 3-3. 設問

14

### 3-3. 設問

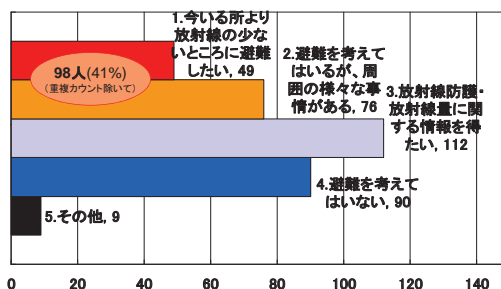
【問-1】東電原発からの放射能汚染で子育てに関して不安はありますか？



\* 本アンケートは、不安をもっていると思われる未就学児家族を対象に行ったため、本質問の解釈については要注意。

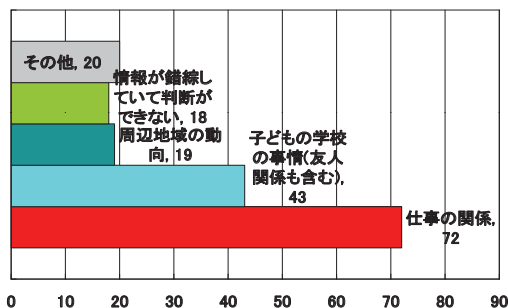
15

【問-2】不安がある場合、どのように対応したいですか？(複数回答可)



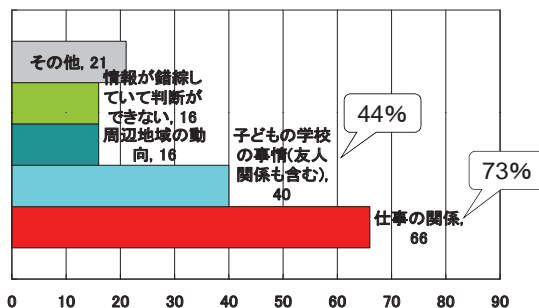
16

【問-3】問2で「4.避難を考えてはいない」と回答されたご家族にお聞きします。その理由は何ですか？(複数回答可)



17

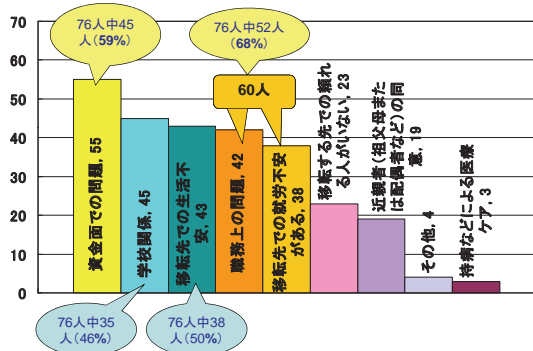
【問-3】問2で「4.避難を考えてはいない」(90人に限定)と回答されたご家族にお聞きします。その理由は何ですか？(複数回答可)



18

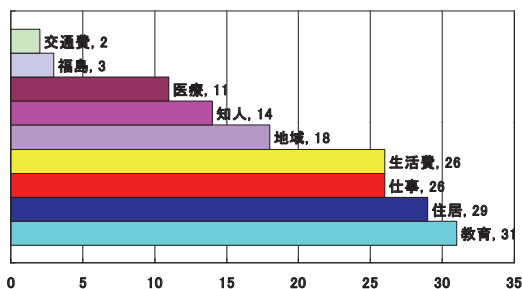
2012/2/28

【問-6】問2で「2. 避難を考えてはいるが周囲の様々な事情がある」(76人)と回答されたご家族にお伺いします。その事情は何ですか。(複数回答可)



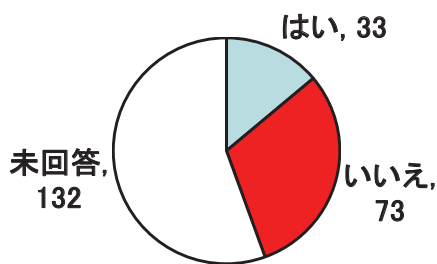
19

【問-9】問4の地域へ避難する場合、期待する支援や不安に思っていることは何ですか？(記述)



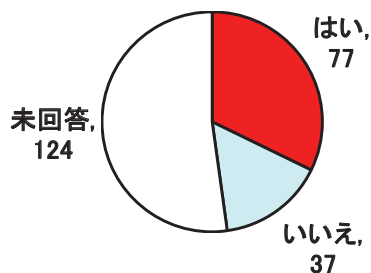
20

【問-11】家賃の負担は可能ですか？



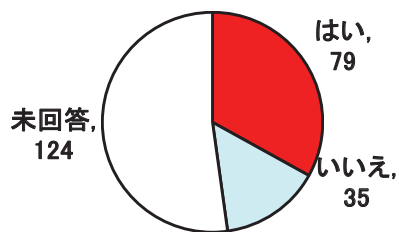
21

【問-12】仕事探し・生活再建のためのサポートは必要ですか？



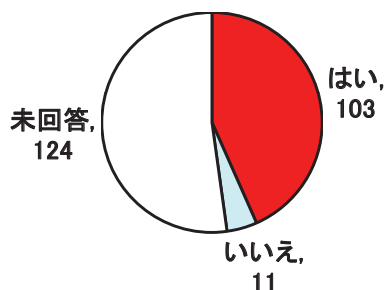
22

【問-13】タウン情報や街のコミュニティ情報(サークル活動など)の情報は必要ですか？



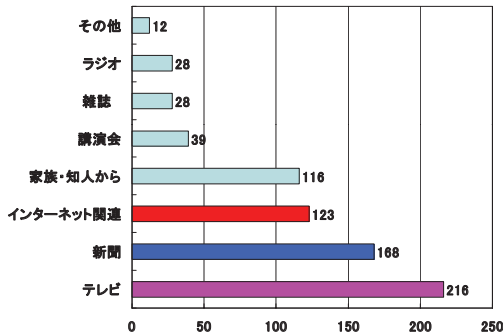
23

【問-16】避難・移住後も福島県内の情報は必要ですか？

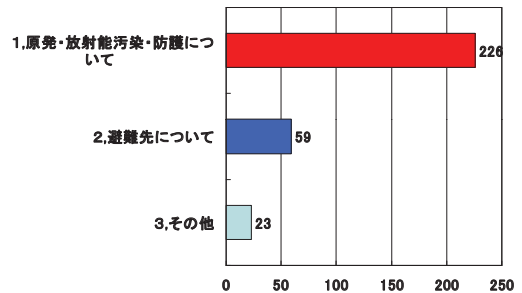


24

【問-17】原発・放射能に関する情報は、どのように得ていますか？



【問-18】今後どのような情報提供を希望しますか？(複数回答可)



【問-20】(1) その他、ご意見・お困りごとなどございましたら、ご自由に記入して下さい。

- ・ 一日も早く子どもが安心して生活できる環境を返して下さい。
- ・ 子どもがまだ小さいので、将来的にどのような影響がでるのか不安です。
- ・ モルモットにしないでちゃんと問題解決してほしい。
- ・ 子どものことを思えば、避難を考えない親はいないと思う。...子どもがどんな苦しみ、悲しみにさらされるのだろうと考えると胸がつぶれる思いだけれど、今の私にはどうすることもできない。
- ・ 私たちの30年後はどうでもいいですが、子どもたちの30年後を考えると心配です。...子どもを守ることができないこと情けなく感じます。
- ・ 子どもだけでも避難させてあげられれば...と考える事は多々ありますが、現実的には子どもだけなんて無理なので、仕事をしている以上辞めるわけにもいかず、避難は出来ないと諦め、情報を集める事も特にしていません。

27

【問-20】(2) 分裂・別離

- ・ 家族の中での意見の不一致
  - 情報が錯綜していて、家族のなかでも意見が分かれてしまい、不安な毎日です。
  - 夫は放射線量の低い所に引越すつもりがない。...本当にこのまま[中通り]にいていいのか不安でいっぱいです。
- ・ 別離
  - 父親が週1しか来れないので、父親不在を埋めることが大変です。
  - 避難した人たちとまた福島で安心して過ごしたい。

28

【問-20】(3) 保養

- せめて土日だけでも放射線量のない所で子ども達が眠れたらと思う。
- 避難は無理としても、子どもの放射能の影響を少しでも下げるためのびのびと遊ぶ場所を得るため、親の長期休暇(10日から2ヶ月ほど)をとれるシステムがあればいい。
- 週末、線量の低いところへ連れだしてくることや、自分たちの今の現状を訴える機会をつくっていただきたい。

29

【問-20】(4) 放射能汚染・防護、内部被ばく・食べ物に関する心配・情報・要望

- ホットスポットの場所などこまかく発表してもらいたいです。
- 自分達の事よりも何より、子どもたちの将来が心配です。正確な情報を得たいです。
- 将来食べ物やここに住み続けた事で子どもに何かあったらどうしようという不安はあります。でもだからと言って、現在の仕事や先祖代々の土地を離れて避難しようという考えまでは(勇気がないのか)迷っている。...正しい情報が頼りです。
- 地域でもっと細かく線量を測ってほしいと思う。自宅も場所によってはまだ数値が高く、庭で子どもが遊ぶこともできません。食品や水も心配で、他県のものを選んで、水も買って飲ませている状態でお金もはつきりってたいへんまっています。
- 子どもに飲ませるミネラルウォーターがお金がかかって大変。支援してもらいたい。

30

## 【問-20】(5)被ばく調査・健康調査・除染

- 被ばく調査・健康調査
  - 内部被ばくの検査をもっと早くからやってほしい。
  - 今後(何十年後)どんな身体的影響が出てくるかわからないので、数値の高いところに住んでいた証明(居住証明)を発行して欲しい。
- 除染
  - 個人宅の除染は個人でと言われていますが、無理です(できません)。県や国の方で何とかして欲しいです。
  - 福島県で子どもと暮らしていいのか。この先、病気になつたりしないのか…こんなに外で遊ばせられず、子どもに影響はないのか…不安がつきません。また、除染も5ヶ月たってもお進まず、そんな行政にもがっかりです。子どもというのは世の中の宝と思うのですが、そうは思っていないのか疑問です。

31

## 【問-20】(6)補償・支援

- 私たち大人はいいですが、子どもたちが一番心配です。本当に、国や政府は、国民を守る気持ちがあるのでしょうか？
- 中途半端な土地なので、東電からの補償もなく、毎日不安と戦いながら放射能をあびながら暮らしている。国も市も何もしてくれない…と思いつつ過ごしています。
- 現実には家のローンもあり、家族がバラバラになり、二重生活をしていく自信がありません。
- ただ、先立つものもないし、同じ[中通りの自治体]でも支援してもらえない駅でもなく何もできずにいるのが現状です。
- 様々な事情で福島を離れられない人達に平等に情報やサービスを提供してほしいと感じています。

32

## 【問-20】(7)国・教育機関に対する強い失望・要望

- 国策でしてきたことなので、国策で救助して下さい。
- 福島の教育委員会もこれ以上親を不安にさせないように先生に言っています。先生はカリキュラムを終了させることを、子どもの健康より大切にしています。だれが子どもの健康のことを考えているのでしょうか、親しかいないと思いました。
- 科学的根拠もないのに安全というのは経済優先の考え方です。…国が説明責任を果たせていたら、自主避難なんてないはずです。

33

## 【問-20】(7)長期的な視野

- 放射能の影響は一過性ではなく、これから何年も先に出ると言われています。このことが、一つのブームのようなものではなく、健康な体をつくっていくことの大切さを伝え皆で意識して行ける環境をつくってほしいと思います。
- 内部被ばくへの不安は大きい。2人の子ども、今お腹にいる子どもへの影響が一番心配なところ。今の状況でどこまで健康被害がでるのがはつきりしないので不安はいつまでも尽きないと思うし、そういう不安の中で毎日暮らしている私達への補償は忘れずずっと続けていただきたい。せつかく今まで健康に暮らしてきたのに、今回の放射能で今後病気になつたり体に変化が出てきたらいやだなと思うし、今回の事故を悔やむに悔やみきれない。

34

## 【まとめ・提言】

FSPならびにFnnnPIは、本合同調査を踏まえて以下の点をまとめ、提言します。

- 福島県内で未就学児を抱えている家族の多くは、事故発生半年以上経った時期においても強い不安を感じており、国や自治体は、それらの不安に応えるための「避難」を含む対応を充分に行っていない。
- そのため、多くの家族は避難をしたいにもかかわらず、仕事や金銭的理由をはじめ、さまざまな要因によって福島県内にとどまっている。
- 国や自治体は、このような不安に対して真摯な対応を急ぐ必要があるとともに、それを補う民間による継続的支援が必要である。
- 対象者の要望に応じて、国・自治体・メディアは原発、放射能汚染や防護に関する正確な情報開示を行う必要がある。
- かろうじて自主避難した家族も、経済的な圧迫だけでなく、孤立感を深め心理的にも負担が増大しているケースがあることが、別調査からもわかっている。今後、ネットワーク形成とともに、心理的・精神的ケアについて、早急な対応が必要である。

35

## 記名あり避難希望者への対応

- 福島県内(会津地域)&どこでもよい&関西方面への避難希望者:うつくしまNPOネットワークが個別対応
- 各拠点の所在地が含まれる避難希望者:各拠点で個別対応
- 拠点が無い所在地だけの避難希望者:事務局から個別情報提供
- 全国の受入れ先情報の一斉送付

36

## 原発事故における「避難」に関するアンケート調査単純集計結果

注:原則として原文ママとしたが、地域・個人が特定できる可能性のある地域名・固有名詞等については伏せ[ ]内に代替した。また場合によって、[ ]内に補足説明を加えた。

回答者数		238	100%
	男性	32	13%
	女性	171	72%
	性別不明	35	15%
<b>1. 震災前 市町村</b>			
			別紙1
	市	178	75%
	町	44	18%
	村	14	6%
	未回答	2	1%
	浜通り	79	33%
	中通り	147	62%
	会津	10	4%
	未回答	2	1%
<b>2. 原発からの距離</b>			
			別紙2
	10km以内	27	11%
	20km以内	7	3%
	30km以内	10	4%
	40km以内	19	8%
	50km以内	27	11%
	60km以内	61	26%
	70km以内	10	4%
	80km以内	27	11%
	100km以内	4	2%
	120km以内	1	0%
	150km	1	0%
	未記入	44	18%
<b>3. 区分</b>			
1, 警戒避難区域		36	15%
2, 計画的避難区域		2	1%
3, 緊急時避難準備区域		10	4%
4, 特定避難奨励地点		1	0%
5, その他 ( )		131	55%
	区分なし	6	
	郡山で一番放射能が高いところ	1	
	自主避難区域	1	
	わかりません	1	
	区域外	2	
	測定中	1	
未回答		58	